

令和7年度 立川市立大山小学校 グランドデザイン

＜教育目標 ◎ よく考え進んで学習する子 Head (知) ○ 心豊かに助け合う子 Heart (徳) ○ 健康で明るい子 Health (体)＞

Head (知)・Heart (徳)・Health (体) のバランスの取れた児童を全教職員で丸となって育て、地域社会に「しあわせの風」を吹かせる構成員として送り出す！

- ・「よく考え進んで学習する子」の実現：授業の中に児童が「自分で考える」「自分の考えを表現する」「他者と意見交流し自身の学びを深める」「学習を振り返る」4場面を創り出していく等、児童が学習の主体者となる学習展開（学びの構造転換）の授業を全教員が着実に実施する。その実現の為に、各教員が日々の授業実践、相互授業参観やOJT研修等を通して、より良い授業の実現を目指し、常日頃から教材研究等の工夫と改善を重ね、授業力を高めていく。
- ・「心豊かに助け合う子」の実現：温かい学級経営と思いを重視した指導の中で、児童が安心して生活できる環境を作るとともに、人とかかわる多様な活動の充実や利他的な姿勢を育む指導によって、「人とかかわる楽しさ」「多様な考えに触れる面白さ」「人の役に立つことのすばらしさ」等を感じ、人へのやさしさと自分への強さをもった児童を育成する。また、児童の心に寄り添う生活指導により、いじめや問題行動、学校不適応等の早期発見・早期解決を図る。
- ・「健康で明るい子」の実現：体育科の授業や体力向上旬間を核として、体力向上への取組を計画的に進めるとともに、病気や怪我を減らすための健康増進・感染症予防及び防止への意識を高め、「体を動かす楽しさ」「挑戦する面白さ」「健康に生きる大切さ」を感じ、健康な心身を育むことで児童のレジリエンスを高めていく。また、様々な行事等への取組の中で、最後まで粘り強くやり抜くしなやかな心を育てる。

わかるって楽しい Head (知)

- ① 考える・表現する・学び合う・振り返る 児童主体の学びが展開される授業
- ② すべての教育活動での「発表」「話し合い活動」等、積極的な言語活動の充実
- ③ 習熟度別少人数指導等、個に応じた学習指導、ICT機器の日常的活用
- ④ 教員の専門性の向上（1～4年交換授業・高学年教科担任制の充実）
- ⑤ 基礎学力定着のための朝学習や放課後学習教室UP等の補充学習等の取組
- ⑥ ユニバーサルデザインの考えに基づき、にじいろ学級及びキラリと通常学級の連携を反映した学級経営の実施及び特別支援教育の理解啓発活動の充実

人とかかわるって楽しい Heart (徳)

- ⑦ 道徳の時間や縦割り班活動、クラブ・委員会活動、全校遠足等の異学年交流を通じた児童の主体性の育成と思いを育む心や生活態度等の規範意識の醸成
- ⑧ 立川市民科を中心に地域の方々と様々な方法でかかわる交流活動や、障害者理解教育、地域学習を通じた、地域社会の一員としての自覚を育む取組
- ⑨ 自閉症情緒障害特別支援学級設置校としての交流・共同学習等を通じた、様々な人とかかわって生きる喜びを感じさせる取組（インクルーシブな心の育成）

元気に育つって楽しい Health (体)

- ⑩ 体育の授業、体力向上旬間、集会活動、感染症予防や保健指導の実施等を通して、体力の向上と健康の増進（早寝・早起き・朝ごはん）のための取組
- ⑪ 日々の給食指導や食に関する出前授業、絵本給食の取組等を通して、児童の食生活への意識向上を促すとともに、健全な成長を目指す食育の推進
- ⑫ 担任・養護教諭・SC・福祉関係諸機関等との連携を通じて児童の心の安定を図り、いじめや問題行動、学校不適応に対する早期発見・早期対応等、組織的支援の充実 完全不登校0へ

体験・交流するって楽しい

- ⑬ 読書旬間・読み聞かせ・ビブリオバトル等の読書活動の充実
- ⑭ NPO 法人と連携したキャリア教育の実施
- ⑮ 教科横断的・カリキュラムマネジメントを鑑みた体験的な出前授業の実施及び出前授業の新規開拓
- ⑯ 青少年赤十字加盟校として、「1年玉募金」「ブックオフプロジェクト」「あいさつ運動」「防災教育」等、利他的な活動を通して身近なところから世界平和への貢献へ
- ⑰ 学習者用デジタルドリルやプログラミング、オンライン等、ICTを活用した学習活動の推進 デジタル黒板のフル活用
- ⑱ 五中学校区による小中及び保小連携教育活動の取組



～皆で成長し 皆が幸せになる 未来志向～ 大山小学校の目指す教育

「わかる楽しさ」「人とかかわる楽しさ」「生きる楽しさ」を目指して

☆ 楽しさを大事にしなが、ら、しあわせに生きていく ☆

学ぶ楽しさや体験する楽しさを通じて、多くの人とかわって生きていくことへの喜びを感じ、

地域社会の構成員として、ウェルビーイングを高めながら前向きに生きる児童の育成を進める



家庭・地域から信頼される学校づくり

- ⑲ 学校だより、学年だより、学級通信（クラスルーム）、学校ホームページ、校長日誌等による迅速かつ新鮮な情報の発信
- ⑳ 年間2回の保護者面談（7月・12月）、日々の電話や連絡帳等を核とした丁寧で温かい保護者対応
- ㉑ メールシステムやホームページの活用による文書類のペーパーレス化の一層の推進
- ㉒ 有事を現実的に想定した避難訓練・引き渡し訓練の実施
- ㉓ 学校運営協議会や学校評価に基づき、前例踏襲ではない新たな視点をもった柔軟な学校運営方針の決定等、コミュニティ・スクールとしての学校運営の進化

取組を支える教職員組織

◇ 相互に学び、高め合う教職員

○授業力の向上

児童が自ら「やりたい」「考えたい」と意欲をもち、「わかった」「できた」「学習が楽しい」と達成感が得られる授業を行うために、指導計画の作成、教材研究や準備等を充実させ、教員一人一人の授業力の向上を目指す。

○組織的な対応

組織として共通理解を図って協働実践を進めるとともに、教職員同士で情報を共有化し意見交換をする中で、属人的な指導ではなく組織的なより良い実践を作り上げることで、職場を進化させていく。

○計画的な取組

教育計画、年間指導計画や週ごとの指導計画、各種行事等の実施計画に基づき、A（予測）A（行動）R（省察）サイクルで教育活動を進めていくとともに、3部会・週3回の職員打ち合わせ等で適宜方向性を確認し、全ての教職員が同じ目標に向かって取り組む。また、西部共同事務室設置校として、共同事務室の組織的・効率的運営を進める。

◇ 高い危機管理意識をもった教職員

○児童の事故防止

安全な教育環境を整え、最悪の事態を想定して行動し、未然に防ぐための指導の改善を行う。事故が起きた場合には迅速で手厚い対応をとるとともに、事故の原因分析を行って再発防止策を講じる。日常の感染症防止策を徹底する。

○いじめ、問題行動、学校不適応への対応

児童のいじめや問題行動、学校不適応の芽を早期に発見して未然に防ぐように努力し、全ての教職員での情報共有を基に、児童のわずかな変化もいじめや問題行動、学校不適応へ発展する可能性ととらえ、予防的・開発的な生活指導をきめ細やかに徹底して行う。

○服務事故の根絶

服務事故の根絶のために厳格に職務を進める。服務事故防止月間だけでなく、サービスニュースレター等を活用して職員打ち合わせ等で服務厳守の徹底を伝達するほか、機をとらえて服務事故防止意識の啓発を行い、教職員同士の意識醸成を図る。

◇ 愛情をもって接する教職員

○温かく

児童・保護者・地域の方々に温かく接し、教育公務員としての使命感や熱意をもって誠実に職務を全うする。

○丁寧に

言葉、態度、服装、児童の指導、保護者へのかかわりと対話、全ての業務について、常に丁寧に行う。

○迅速に

職務の進行管理を適切に行い、児童や保護者対応等、常に緊張感をもって迅速な対応・報告を心がける。

◇ 心身ともに健康な教職員

○働き方改革とメンタルヘルス

ワークライフバランスに配慮し、業務の効率化や平準化を図って心身の健康を維持する中で、児童・地域・保護者に安定した心で接することのできる教職員集団であることを心掛ける。（心穏やか・体健やかな状態の維持を大切に）

○自己研鑽と資質向上

学級経営力（学習指導力+生活指導力）や校務運営力を高める具体的な研修（＝校外研修）に挑戦する。余暇を通じた人間力の向上及び心の安定・余裕の獲得を目指す。